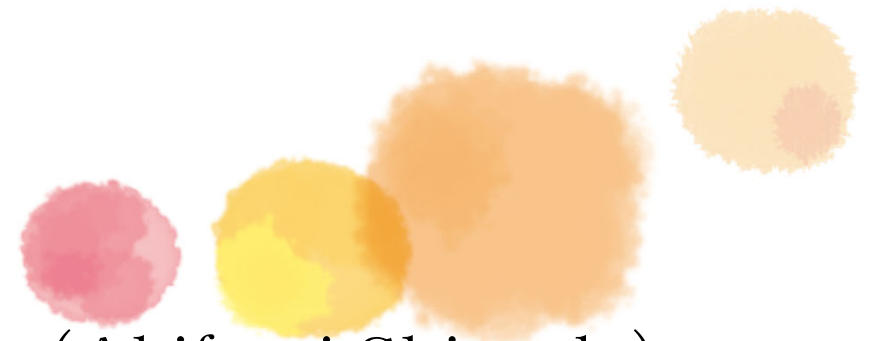


美咲町の取り組みについてのコメント ～「賢く縮む（スマートシュリンク）」の受け止め方～



嶋田暁文 (Akifumi Shimada)
(九州大学大学院法学研究院 教授)

1 「賢く縮む（スマートシュリンク）」の問題性

「賢く縮む（スマートシュリンク）」が、「人口が減少しても、そこに住む一人ひとりの生活の質を維持・向上させ、住民が幸せに暮らし続けられるよう、『未来を選び直す』ための取り組み」という意味であれば、大賛成。



しかし、ややもすると、この言葉は、「撤退・周辺部の切り捨て」を「合理的で賢い政策」として美化する言葉になってしまうため、要注意。

＊「賢く（スマート）」という言葉が入った瞬間に、どうしても「縮小（シュリンク）」に伴う「痛み」がきれいにオブラートに包まれて見えなくなってしまうがち。



どうにか？

1 「賢く縮む（スマートシュリンク）」の問題性

- ①「賢く縮む（スマートシュリンク）」は未来への諦念に基づく「撤退」のための話になりがち。



「人口減少」が「財政制約」や「担い手不足」と結びついて、

「賢く縮む（スマートシュリンク）」は、
「もう人口は増えない」、だから「公共施設を減らさざるを得ない」、「行政サービス水準も下げざるを得ない」という話になりがち。



そうではなく、「賢く縮む（スマートシュリンク）」は、
「（持続可能な）未来を選び直す」ための取り組みと位置付けるべき。

1 「賢く縮む（スマートシュリンク）」の問題性

②「賢く縮む（スマートシュリンク）」は、「自治体全体としての効率性」向上のために特に「周辺部」の人々に不利益を甘受させがち。



通俗的な「コンパクトシティ論」に回収されがちで、その結果、「周辺部に住み続ける人は自己責任」、「不便な場所に住むならサービス低下は受け入れてください」といった言説につながりかねない。



「賢く（スマート）」という言葉によって「痛み」が見失われがちになり、「縮小（シュリンク）」がもたらす地域間格差が暗黙裡に合理化され、隠されてしまいがちになる（問われなくなる）のではないか？

→「縮小は誰にとって『賢い』のか？」（Who loses, what, when, and how?）を常に問うべき。

1 「賢く縮む（スマートシュリンク）」の問題性

③「賢く縮む（スマートシュリンク）」は、**周辺部における「地域の尊厳」**を傷つけ、「**誇りの空洞化**」をもたらしがち。



周辺部では、「自分たちの地域は非効率でもう価値がないと言われている」、「行政から見放されている」といった「あきらめ」の空気感が漂ってしまいがちで、「**地域の尊厳**」が毀損され、「**誇りの空洞化**」がもたらされる。



負のスパイラルで、一気に**周辺部の持続可能性が低下**してしまう。

1 「賢く縮む（スマートシュリンク）」の問題性

④「賢い（スマート）」という言葉によって、「賢く縮む（スマートシュリンク）」が「正しい判断」であることが前提になってしまいがち。



「賢い（スマート）」という言葉で合理化される結果、「正しい判断なのだから、我慢してください」という話になりがち。



そのため、住民参加が十分なされないまま推進され、「行政による上からの撤退」に結実してしまう。

また、（たとえば、公共施設を廃止するかどうかという点に明白なように）そこには本当は鋭い価値対立が存在しているにもかかわらず、「賢い（スマート）」という言葉でオブラートに包まれるため、政治判断の責任が回避されかねない面もある。

1 「賢く縮む（スマートシュリンク）」の問題性

⑤縮小（シュリンク）自体が目的となったり、その実行自体が賛美されたりしがち。



縮小（シュリンク）はあくまで手段のはず。



ところが、いつのまにか縮小（シュリンク）自体が目的となったり、縮小（シュリンク）を実行していること自体が先進的であるべき姿だとして賛美されたりしがち。



縮小（シュリンク）はあくまで手段。「縮小する中で、何をどこまで守るのか？」を地域でしっかり考えるべき。



権利保障の視点と住民参加が大事。

2 好ましいスマートシュリンクか否かの判断基準

以上を踏まえるならば、以下が「好ましい『スマートシュリンク』であるか否か」の判断基準となるものと思われる。

- ①「賢く縮む（スマートシュリンク）」が、未来への諦念に基づく「撤退」のためのものとなっているか、それとも「未来を選び直す」ためのものとなっているか？
- ②「賢く縮む（スマートシュリンク）」が（特に「周辺部」への）不利益を十分考慮に入れたものになっているかどうか。
- ③「賢く縮む（スマートシュリンク）」が、周辺部における「地域の尊厳」を傷つけ、「あきらめ」と「誇りの空洞化」につながっていないかどうか。

2 好ましいスマートシュリンクか否かの判断基準

- ④「賢く縮む（スマートシュリンク）」が、住民（地域）とともに、あるいは、住民参加を通じて実行されているかどうか。
- ⑤民主的代表が自らの政治的判断の理由等を住民にしっかり説明し、説明責任を果たしているかどうか。
- ⑥縮小（シュリンク）自体が目的と化していないかどうか。
「人口が減少しても、そこに住む一人ひとりの生活の質を維持・向上させ、住民が幸せに暮らし続けられるための手段」という位置づけを維持できているかどうか。

2 好ましいスマートシュリンクか否かの判断基準

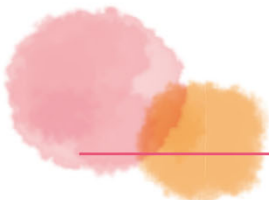
→美咲町の場合は、これらの基準を見事にクリアしているのではないか？



美咲町の「賢く収縮する（スマートシュリンク）」は、先に見た好ましからざる「賢く縮む（スマートシュリンク）」とは**全く一線を画する**のであり、**両者は明確に区別されるべき！**



そうでないと、美咲町の取り組みが評価され、宣伝されればされるほど、**好ましからざる「賢く縮む（スマートシュリンク）」が広がってしまう**という、意図せざる結果につながりかねない！



3 美咲町から学ぶべきこと

→学ぶべきは、縮小を大きく進めたことそれ自体ではない！

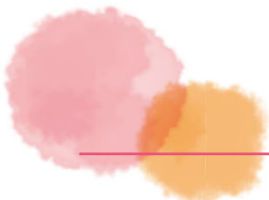
①住民による主体的な取り組みのきっかけとしての「縮小」
(→むしろ「縮小」が「あきらめ」とは逆に「主体性」を引き出すきっかけになっている。)



小規模多機能の取り組みと公共施設マネジメントを並行的に進めたことがポイントだった！

②小規模多機能自治につき、「～しなければならない (Must)」の原理ではなく、「～したい (Will)」 「～できる (Can)」の原理で、若い層を含む多様な担い手を巻き込むことに成功し、「ごちゃまぜ」を実現している。

→みんなの集落研究所の役割が大きい！



3 美咲町から学ぶべきこと

③「ハード」×「ソフト」によって「賑やかな過疎」を生み出していること。

→「縮充（＝量的には縮小しても、機能を充実させることで施設の効果的・効率的利用を図る）」が大幅な利用者増につながっているが、おそらくこれはハード面を通じた成果だけでなく、ソフト面（人の交わりの仕掛け）とのかけ合わせで生み出されている成果である。

④地域のことを「自分事」としてとらえて活動する、住民たちの心意気。そして、それが織りなす「絆」と「つながり」。

⑤都合の悪いことも含め、情報を共有し、住民たちと本気で向き合ってきた町長と職員たちの真摯な姿勢。